

水害に備える～水防災意識社会再構築ビジョン～

四国地方整備局 河川部 河川計画課
調査第一係長 中岡 昭浩

1. はじめに

平成27年9月関東・東北豪雨災害では、記録的な大雨により鬼怒川において、越水や堤防決壊等により、甚大な被害が発生しました。この災害を踏まえ、『施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生する』との考えに立ち、意識の変革を行うとともに、社会全体で洪水に備えるため、新たに「水防災意識社会再構築ビジョン」を作成し、全国の国管理河川及び都道府県管理河川で取組を行っていますので、四国における取組内容とあわせて紹介します。



図 水防災意識社会再構築ビジョンの主な取組内容

2. 水防災意識社会再構築ビジョンの概要

平成27年9月関東・東北豪雨災害では、広範囲で長期間の浸水が発生、さらに、多くの家屋が倒壊・流失し、多数の孤立者・市外避難が発生するなど、これまでの洪水に対する考え方や対策では、必ずしも十分ではないことが浮き彫りとなりました。

平成27年9月関東・東北豪雨の被害の主な特徴



広範囲が長期間浸水
多くの住宅地を含む広範囲が長期間にわたり浸水（常総市の約1/3に相当する区域約40km²、約1万棟が浸水。浸水解消まで約10日間）



多くの家屋が倒壊・流失
堤防の決壊に伴って発生した氾濫流により、堤防近郷の多くの家屋が倒壊・流失



多数の孤立者・市外への避難
避難勧告の遅れ、多数の孤立者（約4300人が救助）。避難者約1800人の半数が市外に避難

（出展）国土交通省ウェブサイト 水管理・国土保全局 水防災意識社会再構築ビジョンより

これらを踏まえ、国土交通大臣から社会資本整備審議会会長に対して「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について」が諮問され、平成27年12月「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について～社会意識の変革による「水防災意識社会」の再構築に向けて～」が答申されましたが、答申の中には「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へと意識を変革し、社会全体で洪水に備える必要があるとしています。

その答申を受け、「水防災意識社会 再構築ビジョン」が策定され、国管理河川及びその沿川市町村等の関係機関において、水防災意識社会を再構築するため、減災に関するハード・ソフト対策の取組を行うこととしています。

また、平成28年10月には、県管理河川へも取組が拡大されているところです。

3. 四国における水防災意識社会再構築ビジョンの取組状況

水防災意識社会を再構築するため、沿川市町村、県、気象台、河川管理者等から構成される協議会を水系毎に設置することとしています。

四国では、国が管理している一級水系が8水系、県が管理している二級水系が397水系あり、平成28年12月末時点で四国の国管理河川8水系全てで協議会が設置されています。

県管理河川は、現在、肱川水系の協議会に県管理河川も取り込み、取組を推進していますが、その他の河川についても、平成29年度の出水期までに協議会等を設置し、同年度末までを目途に取組方針をとりまとめることを目標としています。



写真 肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会の開催状況

- ▶ 国管理河川の全8水系で協議会を設置済。
- ▶ 肱川では県管理河川も取り込んで推進中

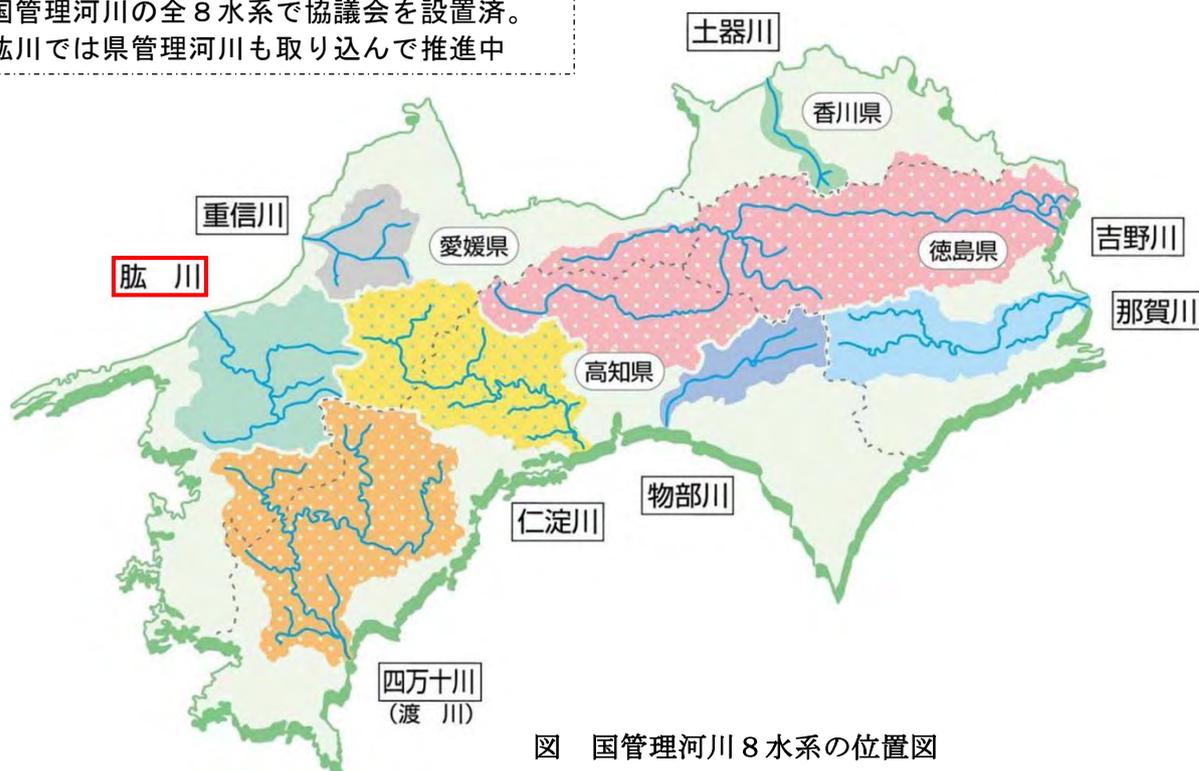


図 国管理河川8水系の位置図

協議会では、減災のための目標を共有し、その目標達成に向けたハード・ソフト対策を地域が一体的に取り組み、計画的に推進することとしており、概ね5年間で実施する取組内容を定めた取組方針を協議会毎に作成し公表しています。

なお、取組方針に記載されている減災のために実施する主なハード・ソフト対策は次のとおりです。

《主なハード対策》洪水氾濫を未然に防ぐ対策、危機管理型ハード対策

《主なソフト対策》住民目線のソフト対策



図 ハード対策の事例

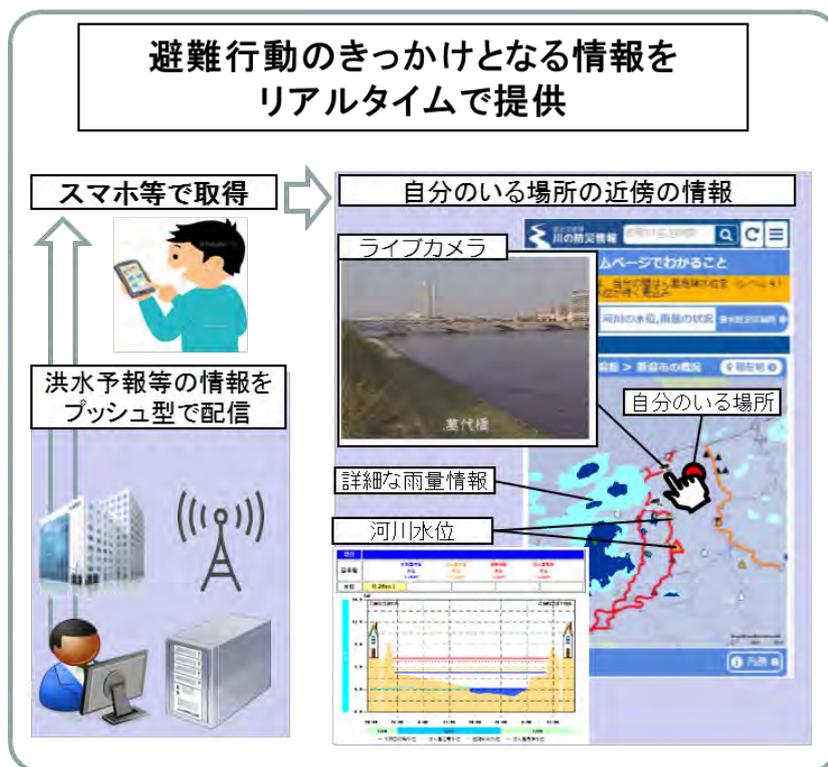


図 ソフト対策の事例

その他、ハード対策については防災拠点の整備、ソフト対策では、洪水リスクに関する住民意識調査の実施、広域避難に係る計画の作成・支援、大規模工場等の用途及び規模の条例制定等を取り組んでいくこととしています。

なお、各協議会の取組方針や取組状況等については、協議会毎にウェブサイトを立てており、特に取組状況については、随時更新していますので是非ご覧下さい。

4. 四国における水防災意識社会再構築ビジョンの取組内容

水防災意識社会再構築ビジョンの概要や取組状況を紹介してきましたが、実際に各協議会が現時点までに取り組んでいる内容について、紹介します。

『仁淀川大規模氾濫に関する減災対策協議会』の取組内容



写真 防災まちづくりサロンの状況

～家庭における防災力の向上を図る取組～

高知県佐川町では、毎月第2日曜日を「さかわ家族防災会議の日」として制定。毎月異なったテーマでの話し合いを呼びかけている。また、家庭における防災力の向上をはかる防災まちづくりサロンを各地区で開催し、風水害時の行動計画を予め家庭で決めてもらう取組を推進中。

『肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会』の取組内容

～地域のイベントを活用した防災意識向上を図る取組～

愛媛県大洲市で開催した地区のイベントにおいて、自主防災組織が作成した浸水イメージ等をまとめたDVDの放映。

この地区周辺には昭和18年、20年の洪水を体験した人が多くおり、今回のイベントにも参加。

また、昭和18年の被害に遭い、展示していた写真に写っている本人が、当時の状況を参加者に説明し防災意識の向上が図られた。



写真 自主防災組織の作成したDVD放映及び説明状況



写真 昭和18年の洪水経験者説明状況

その他の取組内容として、知りたい場所の浸水リスクがウェブサイトで取得できる『地点別浸水シミュレーション検索システム（通称：浸水ナビ）』を構築していますので、紹介します。

地点別浸水シミュレーション検索システムの構築（通称：浸水ナビ）

- 浸水ナビでは、堤防が決壊（破堤）した場合どのくらい浸水するのか、何時間で浸水が始まるのか、何日で水が引くのか、などを事前にイメージすることができるとともに、河川が危険な水位に達していないかなどの情報収集が可能。

浸水ナビの機能

- ◆どの河川のどこかの地点が決壊（破堤）したら、自宅や会社などが浸水するのかがわかります
- ◆堤防決壊（破堤）後、『どこが・いつ・どのくらい浸水するか』の変化をアニメーションやグラフで見られます
- ◆大雨の際に、どこかの水位観測所の情報を見ておけば良いのかがわかります
- ◆また、現在の水位がわかるウェブサイト（川の防災情報）へもリンクしています

指定地点の浸水深の時間変化アニメーション（土器川の事例）



浸水ナビは、スマートフォンからも確認することができます

[\(http://suiboumap.gsi.go.jp/\)](http://suiboumap.gsi.go.jp/)



《上記バナーをクリック》



《QRコード》

5. おわりに

これまでの水防災は、川から水が溢れないようにする施設整備を中心に対策を行ってきましたが、近年の地球温暖化に伴う気候変動等を踏まえれば、これからは、そういった施設では守り切れない大洪水が必ず発生するとの前提にたって、施設能力を上回る洪水が発生した場合においても「逃げ遅れる人をなくす」、「経済被害を最小化する」など、減災の取組を地域一体となり推進していきます。